

DAC仕様

- 1 ESS社製ES9038PROを2個使用しL/R完全分離型のDUAL MONO構成です。
- 2 I/V回路は合計16回路(L/R 各8回路)とし音質向上を計っています。
- 3 LPF、出力回路のFULL BALANCE構成、L/R(GND)完全絶縁は従来通りです。
- 4 ES9038PROはmclkを同期動作させるとDPLLをOFFとしたNoBandWidthを設定できますのでES9018K2Mと同様に基本動作はNBWとしています。
AIT独自のジッター抑圧の効果により、S/PDIF、PCM、DSD入力でもロック外れはありません。
SRC等による同期動作ではジッターを含んだ変換をするため、音声DATAが原音と異なり音質劣化がありますが、AIT方式は原理的にこのようなことはありません。
- 5 DAC出力を可変できる様になります。
ES9018SではDSD時出力を可変できませんが、ES9038PROではPCM/DSD共可変できます。
可変幅は量子化雑音が目立たないよう+4dB~-40dB程度になります。
- 6 入力信号はPCMが44.1kHz~384kHz、DSDは2.8224MHz~24.576MHzとなります。
PCM352.8k/384kとDSDは内蔵DDC(COMBO384)又はHDMIケーブル経由となります。
全ての入力信号は自動判別表示しES9038PROを最適な状態に設定します。
(HDMIはTV等の規格とは異なりますので互換性は全くありません)
- 7 PCM=>DSDrealtime変換は従来通りDSD128/256/512となります。
- 8 リモコンを搭載できます。音量、各種状態設定できます。
AITプリと同様に市販のTV用10(12)key付きを使用します。
- 9 電流駆動が可能になります。
ES9018K2M基板は対応していましたが、それを踏襲しました。
- 10 電源は専用になりますが、外形、コネクタ位置はDAC基板を含めES9018S/K2M基板と互換性あります。
消費電流が大幅に増大したため、従来基板は使用できなくなりました。
- 12 以上記載以外はES9018S基板と同様になります。

基本性能

- | | | |
|---|-----------------------------------|--|
| 1 | 入力 S/PDIF(同軸、光)
DDC経由 | fs=44.1k/88.2k/176.4k/48k/96k/192k
PCMfs=44.1k/88.2k/176.4k/353.8k/48k/96k/192k/384k
DSDfs=2.8M/5.6M/11.3M/22.6M/3.1M/6.1M/12.3M/24.6M |
| 2 | PCM=>DSDrealtime変換
(DSD入力時も有効) | DSD128/256/512/OFF |
| 3 | 0dB出力レベル(電流駆動無し) | 4Vrms(balance)
2Vrms(unbalance) |
| 4 | S/N(A)
(FULLSCALE in) | 121dB以上 |
| 5 | THD+N
(20kHzLPF) | 0.0005%程度 |